

二足歩行ロボット…子らに魅力ある実験



火星探査ロボットの実験に取り組む子どもたち
(8月30日、京都市左京区・京大総合博物館)

理科離れ防げ 京大教員指導

来月からさらに本格化

子どもの理科離れが問題になるなか、京大の教員らが本格的な科学実験を指導する団体を始め、注目されている。京滋の公民館や学習施設を会場に二足歩行ロボットや宇宙発射器を作るなど、子どもの興味をそそる高度な内容で多くの参加者を集める。「学校の勉強が最先端の科学につながることを教えたい」といい、十月から活動をさらに本格化する。

子どもの理科離れを「査車に模したロボットを度割合だったが、参加なくす会」。京大人間・製作、障害を回避しながら、希望が多いことから、十環境学研究所の非常勤講師ら目標物の水へと進む動月からは京滋を中心に週師で学習塾代表の北原達作のプログラムを考え、一回のペースで開く。理正さん(太陽物理学)をた。神戸市から参加した科離れは身近に理科の魅中心に三年前に発足し、灘中一年の石橋龍君は力を教えられる人がいなた。大野照文京大総合博物館教授(古生物学)や「難しいけど達成感がある」と喜ぶ。テストに出るから覚えるのでなく、酒井敏京大人間・環境学 実験は参加者のレベル 実感をもたせたい」と北

参加者 「達成感」喜び

研究科助教(気象・海に)に応じて五段階のコース 原さん。次回は十月二十洋望ら、教員五人が世を設け、理解が早ければ 三日に京都大付属花山天話人を務める。 低年齢でも高い難易度 文台(山科区)で行う(無料)。

会は、幼稚園児から中の内容に挑戦できる。 料)。

学生までが対象で、毎回 教員の協力を生かし、 会は、実施内容などにさまざまな科学実験を行 南極の水や古代の化石 よって一部有料。申し込う。今年八月末の実験で などを教材に使うことも みる、問い合わせは同会事は、温度と光の二種類の ある。

務局 ☎077(546) センサーを使い、火星探 これまで会は月一回程 6034。